



結核しずおか

34号2014年4月28日

発行・編集

公益財団法人 静岡県結核予防会

〒420-0915

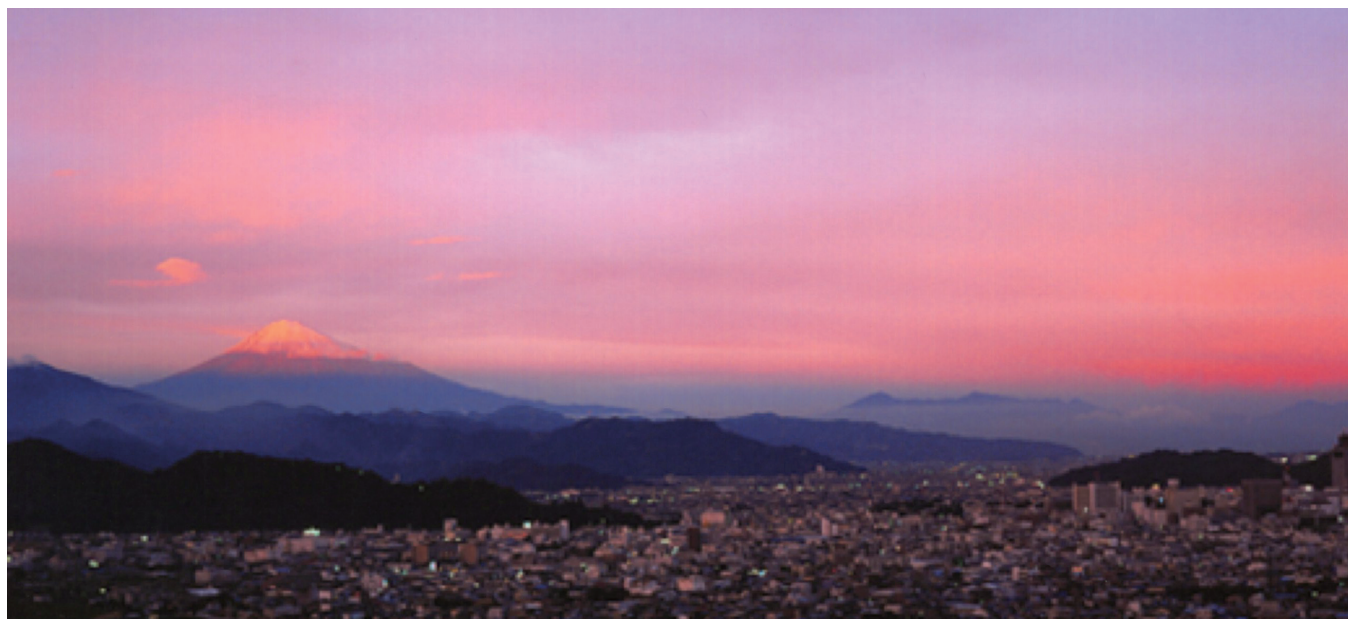
静岡市葵区南瀬名町6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizuoka@gaia.ocn.ne.jp

HP www.jata-shizuoka.org



巻頭言

平成 26 年 4 月から静岡県健康福祉部医療健康局疾病対策課長として、県の感染症、がん、難病対策に携わっております。関係機関の皆様におかれましては、結核対策をはじめ、県の健康福祉行政に御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本県における結核の発生状況を見ますと、結核の罹患率は年々減少傾向ではあるものの、患者の半数以上を占める高齢者の結核や、働き盛り世代における結核の発見の遅れ、WHOにより高まん延国とされる国々からの外国人の流入による外国人患者割合の増、地域別の罹患率、有病率に地域間格差が生じているなど、問題が多様化・複雑化している状況にあります。

また、結核患者数の減少により、診療や治療に精通した医療従事者及び医療機関が減少していることもあり、地域によっては、適切な医療体制の確保が困難になっております。

このような変化に対応するためには、県内における予防業務の統一化、均質化を進める一方で、地域の特性に配慮したきめ細かな対策が必要となってくることから、これまで以上に、結核患者服薬支援事業を推進し、根絶に向けた取組を強化していきます。

また、新登録患者数のうち、割合が増加している 70 歳以上の高齢者や外国人患者への対策として、高齢者施設等の職員への研修や医療通訳ボランティア向けの研修を実施し早期発見・早期治療のための普及啓発活動等、より一層の充実を図っていきます。

また、近年用いられている新しい遺伝子菌分子疫学調査（VNTR 検査）を積極的に実施し、地域的な感染の集積性や潜在的な感染リスク集団を探索するとともに、地域における特徴的な感染伝播状況などを詳細に分析することにより、重点的に対策をとるべき地域や集団等の特定が可能となり、効果的・効率的な結核予防対策に活かしていきたいと考えています。

今後とも、県民の皆様が安心して健やかに暮らすことができる“ふじのくに”を実現するため、関係の皆様方には、引き続き、御協力をお願い申し上げるとともに、公益財団法人静岡県結核予防会が、地域における結核予防の重要な役割をより果たしていくことを期待しております。



静岡県健康福祉部医療健康局

疾病対策課長 奈良 雅文

愛知県の山あい位置する『博物館明治村』、数々の明治時代の建造物が移築され、保存、展示されています。日本における『結核』の本当の流行は、明治時代の産業革命と共に始まりました。

『明治村』には、『結核』の歴史の片鱗を感じることのできる建造物・展示物がいくつかあります。春めいてきた3月、しばしのタイムスリップの旅をしてきました。

名古屋衛戍病院（愛知県有形文化財）

1878年(明治11)に建てられた病院です。

この建物内に、島津製作所が製作した、日本製の『医療用X線装置・ダイアナ号』が展示されています。ドイツの物理学者レントゲンによりX線が発見されたのは、1895年(明治28)のことです。この翌年、はやくも、日本において、その実験に成功し、島津製作所は、初めてのX線写真の撮影に成功、また1897年(明治30)には、X線装置を開発、さらに、1910年(明治43)には、国産初の医療用X線装置を完成させています。

この『ダイアナ号』は、1918年(大正7)に製作され、高性能で、その後の日本における本格的な普及に大きな影響を与え、海外にも輸出されたとのこと。

木製のため、一見アンティーク調の調度品に見え、おしゃれな雰囲気でした。その大きさなどは、現在の装置とさほど変化がないように感じました。『ダイアナ号』という名前がつけられていることに、その当時は、貴重品であり特別感があったこと、世相や時代背景がうかがえます。展示はありませんでしたが、この装置で撮影した写真はどのようなものだろうと思いをはせました。



本郷喜之床



次の建築物は、『結核』により26歳の若さで命を落とした明治時代の俳人・石川啄木が住んでいた場所です。当時は、現在の東京都文京区にありました。建物名からも察しがつくように、いわゆる『床屋』を営んでおり、1階は店舗、啄木は、その2階を間借りして、一家で住んでいました。しかし、結核を発病し、客商売であるのに、『肺病』を患っていられては困るとのことで退去させられてしまったとのこと、その後は、亡くなるまで悲惨な生活が続いたようです。

その当時、結核患者は住まうところも奪われてしまうのだなとせつなく感じました。その一方で、商売を営み、家族が暮らすには、あまりにもせまく小さな建物で、ここで『結核』が発生すれば、その感染は必至であつたであろうと、その当時の庶民の生活が、いかに『結核』のまん延しやすい環境であつたかということを感じることができました。

表彰のご紹介



平成25年度
公益財団法人 静岡県結核予防会表彰

結核予防事業功労者(個人)

坂田 英夫 様
(浜松市保健所推薦)



みなさまのご支援ご協力に

心より感謝申し上げます

北里研究所本館・医学館

この建物は、日本の細菌学の先駆者北里柴三郎が1915年(大正4)に、東京都芝白金三光町に建てた研究所の本館です。

『結核菌』の発見者であるロベルト・コッホ門下の四天王である北里氏により開設された研究所で、日本における感染症研究の礎を築いた場所です。

建物内は、明治以降の日本における感染症研究の歴史が展示されており、その一部に『結核との闘いの歴史展』がありました。コッホによる『結核菌』の発見に始まり、北里氏がドイツ留学から帰国し、どのように『結核』に立ち向かったのかが、わかりやすく展示されており、現在、『結核予防』に携わるものとして、改めて気の引き締まる思いがしました。当予防会の紹介や結核制圧のためにを行っている募金活動の複十字シール募金やシールの紹介もありました。

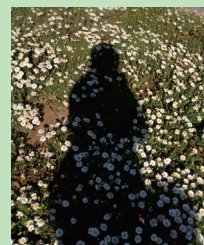
北里氏は、1893年(明治26)福沢諭吉氏の協力を得て、日本初の結核療養所『土筆ヶ岡養生園』(現在の北里大学北里研究所病院の前身)を設立します。また、1913年(大正2)『日本結核予防協会』を設立し、結核予防の普及啓発にも邁進します。この会は、結核の予防に関する研究、調査、図書や雑誌の収集の他、標本や機器を用いて、一般人に解りやすく展覧し、講演会、ラジオ、絵本、ポスターなどによって結核予防思想の普及に努め、かつ、各都道府県に同様な団体の設立を勧誘し、結核の撲滅に向けて活動を展開していきました。北里氏は、『結核菌』の発見当初から、その普及啓発の重要性をわかっていたといえます。

当結核予防会の東京本部が設立されるのは、これより、20年以上あとの1939年(昭和14)で、直接的な繋がりはありませんが、その起源は同じ志であったと推測され、北里氏の提唱していた、普及啓発の大切さは、現在も変わっていないことに感動しました。



今回は、明治から昭和初期にかけての、『結核』に関する、医療技術の発達、庶民の生活、研究やその予防に努めた精神を身近に感じることができました。医学も進歩し、生活環境水準も向上、『結核』は治療可能な病気となった現代ではありますが、『結核制圧』に対してやるべきことは、今も100年以上前の昔も、さほど変化がないように感じるのは、それだけ、この『結核』という病気が、根深く、油断のできない病気であることの証拠ではないかと思うのです。

北里氏の言葉に次のようなものがあります。『研究所は研究のみでなく、予防から治療まで一貫して行うべきだ。研究をどのように世の中に役立てるか考えよ。』この精神を受け継いで、自分の学んだことをどのように生かしていけるのか模索していきたいと感じました。みなさん、ぜひ、『結核』に興味をもっていただき、その普及啓発にご協力をお願いいたします!!



総務課 近藤みのり

平成25年度 静岡県結核予防婦人会長表彰

複十字シール募金成績優良団体

御殿場支部 印野地区 様
御殿場支部 高根地区 様
富士宮市 北山区 様
富士宮市民生委員児童委員協議会様

使用済み切手収集成績優良団体

伊豆市支部様 御殿場支部様
沼津支部様 富士支部様
駿東支部様 焼津支部様
裾野支部様 浜松市支部様

結核対策及び

公衆衛生思想普及啓発活動優良団体

伊東支部 様

結核予防功労者

前任支部長
三島支部 宮内栄子様
駿東支部 鈴木文子様
御殿場支部 勝間田志ん子様
前任支部役員
三島支部 渡邊道子様

「障害者も健常者も共に幸せに暮らせる社会を目指して

足こぎ車いす産学連携の事例から」

今年の講演は、脳卒中などで半身が麻痺した方でも社会に参加することができるよう開発されたりハビリ用足こぎ車いすのお話でした。

足こぎ車いすとは、東北大学の半田康延教授らの研究で開発されていたものを実用化したもので、普段私たちが目にする車いすのほとんどは、手で動かす or 電動式なのですが、足こぎ車いすは、足を乗せる部分にペダルを付けて自転車のようにこぐ自走式になっており、この足でこぐ動きが脊髄の歩行中枢を活性化させ、足こぎ車いすに乗ってこぎ続けることで筋力がつき、運動することで足だけでなく身体その他の部分の筋力もついて日常の動作ができるようになり、身体の麻痺が完全になくなるわけではないのですが、徐々に身体の機能を回復させるというものでした。

しかし、このお話を聞いただけでは、「麻痺した足ではペダルをこぐ動作はできませんので、片方の足だけでペダルを動かしているだけなのでは？」と思いの方もいらっしゃると思います。「なぜ足こぎ車いすに乗ると麻痺している足でもこぐことができるのか？」これは脊髄にある歩行中枢の働きのためだということです。健康な人は脳からの指令で両足を動かしますが、半身が麻痺している方々は脳から麻痺している側の身体に指令を出すことができなくなっています。



しかし、健康な足側のペダルを動かすことで足からの刺激が歩行中枢に伝わり、その歩行中枢の働きによって脳からの指令がなくても麻痺している足側も動き出すというものでした。半身麻痺している方々も実際に足こぎ車いすに乗り健康な足を動かすと麻痺した足もなぜか動き、麻痺した足の筋電図の針も振れているという非常に不思議なお話で人間の未知なる力を感じました。



講演会場には実際に足こぎ車いすが用意され、公演終了後に出席者の方々に実際に乗ってもらう機会がありました。出席者の方々から軽いよ・楽だねといった感想が数多く寄せられ、とても評判が良かったです。私も何が良いのか？実際に足こぎ車いすに乗ってみることにしました。まず足こぎ車いすの大きさなのですが、一般的な車いすの大きさと変わりがなく、福祉機器のサイズ内なので歩道を通っても問題のない大きさでした。座り心地も良くユーザーの体格に合わせて背もたれの張りも調節できました。足を乗せペダルをこいでみると自転車の一番軽いギアくらいの重さしかなく、非常に軽い印象を受けました。また、ハンドルとブレーキは自転車のような作りが一つだけ、手を置く部分前方に縦に取り付けた感じとなっており、半身麻痺した方々でも操作できるようユーザーに合わせて左右どちらでも取り付けられるようになっているとのことでした。このハンドルとブレーキを使った足こぎ車いすの方向転換は非常に軽く容易で、ブレーキも自転車のブレーキのような感覚で使いやすかったです。また、足こぎ車いすを両手で持ち上げてみると非常に軽く持ち運びの容易さを感じ、ご家族の方々にも持ち運びが優しい非常に素晴らしい車いすでありました。



現在、医療法の改正により入院できる日数に上限が設けられました。病院なので行いうりハビリ水準を自宅でも行うことは非常に難しいのが現実です。リハビリを自宅で十分に行うことができずに改善しかけた身体機能が再び後退してしまい、いわゆるリハビリ難民と呼ばれる在宅患者が多くなっていることは、本人にとってもご家族の方々にとっても深刻な問題です。足こぎ車椅子は、こうした歩行の障害や身体機能の低下からくる日常生活能力の低下に伴い精神的に落ち込んだ方々を、再び人的交流や運動による健康づくりによって本人はもちろんご家族の方々も含めた積極的な社会参加を目指して開発された素晴らしい車いすでありました。

検診課 宮崎文考

なぜ・なぜ・ななに



医療被ばくで放射線による健康上の影響が心配になります

医療被ばくの主なものは、次のものがあります。

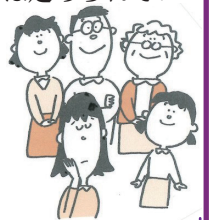
- ① 病院や診療所で、患者さんとしてX線診断・放射線医薬品を投与する核医学検査あるいはコバルト-60などによる放射線治療を受ける場合の医療被ばく。
- ② もう一つは、集団検診あるいは人間ドックなどの健康診断の際の被ばくです。胸部X線検査（単純X線検査やCT検査）と上部消化管検査が広く知られています。これらは、異常の認められない健康な人の集団を対象に行われているスクリーニング（医学的ふるい分け）検査での被ばく。

医療被ばくは、職業被ばくや公衆被ばくと異なり、意図的に放射線を人体に照射したり、放射性物質を体内に投与したりするわけですが、これは患者さん或いは被検者が医療被ばくに伴う放射線の影響を考えるのか、病気の発見など症状を判断することの利益を優先するのかの選択です。これらの被ばくは患者さんや健康な人が受ける状態によって違いますので、職業被ばくや公衆被ばくで定められている線量限度は、医療被ばくに対しては一律には定められていません。

したがって、放射線診断の実施にあたっては、医師或いは診療放射線技師が、適用の判断を慎重に行い（医療行為の正当化）、できるだけ被ばく線量を少なくする努力（防護の最適化）を常に行っております。医療被ばくは、被ばくした臓器の線量或いはX線があたった入射面の皮膚線量を考えて曝射しており、大部分は、身体の一部が被ばくする部分被ばくです。

このように、X線診断は放射線障害が発生しないように日頃から適切に管理がなされております。

診療放射線技師 渡井雅文



複十字シール募金にご協力ありがとうございます。

平成25年度も結核をはじめ、その他胸の病気の制圧のために、複十字シール運動にご協力いただき誠にありがとうございました。皆様のあたたかい善意にささえられ大きな実績を得ることができました。心から感謝申し上げますとともに、今年度も変わりないご協力をお願いいたします。

平成25年度実績報告

1,433万円



大雲院・三兄建設株・(合)ときかわ・蓮生寺・龍豊院・渡辺政一・洞泉院・保泉寺・佐野吉秀・天理教本磐分教会・感應寺・誓願寺・盤脚院・(株)山益衛生・成因寺・安達医院・(株)佐野・(宗)普賢院・土屋貞代・武藤滋(社)庵原医師会・佛源寺・阿部忠行・静居寺・(医)家山鈴木医院・大雲院・(有)二の岡フーズ・静岡浅間神社岡本内科医院・小野寺恭敬・甘露寺・久林寺・(株)テラモト機工・(有)多々良新聞店・大石純正・東嶋功遠藤内科医院・郡定寺・(有)丸誠石材・西琳寺・(株)ニッシン・伊豆国分寺・臨済寺・拙博之・秀源寺・芝田工業(株)・向後信正・八木康彦・コーチ(株)・秋葉総本殿可睡斎・村田ボーリング技研(株)・(医)愛育会

※多数の方々より善意をいただきありがとうございました。大変恐縮ですが、多額の方のみの記載とさせていただきます。

募金箱設置 に協力していただいている場所

御殿場市・富士市へお寄りの際は、各種イベントも実施していますので是非とも足をお運びください。



秩父宮記念公園
(御殿場市)



富士山こどもの国
(富士市)

平成26年度 複十字シール原画



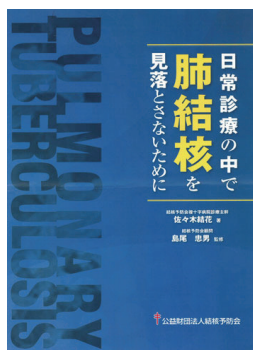
安野光雅先生による13回目のデザインで、今回は「動物」がテーマとなっています。童謡、民話、昔話などの物語に登場する動物達が楽しく描かれています。

今年度も皆様のお手元からこのシールを世界中に広めていただきますようご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



出版のご案内

結核を中心とする疾病の予防に関する正しい知識を広く県民の方に普及するために、公益財団法人結核予防会が編集・出版している専門書やパンフレットなどの案内をしております。



◆新刊◆

「日常診療の中で肺結核を見落とさないために」

医師・看護師など、医療従事者の方の研修会のテキストとしてお薦めです。

複十字病院呼吸器内科診療主幹 佐々木結花 著
公益財団法人結核予防会 顧問 島尾 忠男 監修

A4判20頁 定価本体1,000円+税

◆新刊◆ 結核に関する新情報! 日々の業務に欠くことができない雑誌 「保健師・看護師の結核展望 102号」

❖特集 ★予防指針に基づく対策の進展 先駆的な取り組み
★潜在性結核感染症(Ⅱ) 治療・患者支援の実際

❖業務 DOTSの取り組み／外国人の結核

❖連載 私たちの仲間／随筆／今読んでおきたい文献紹介など

B5判 定価本体1,900円+税



他にもご用意しております。書籍の注文および出版案内をご希望の方は、
公益財団法人静岡県結核予防会までお問合せ下さい。

TEL : 054-261-2512 FAX : 054-261-9474

HPでは最新情報を掲載しております。どうぞご利用ください。

HP : <http://www.jatahq.org>

健康レシピ

グリーンアスパラガスの牛肉炒め



アスパラガスの旬は4月から6月で、特に甘みがあります。
茎の下のほうまで濃い緑色をして、穂先がつぼんでいるもの、茎の直径が1cmくらいあるものを選ぶとよいでしょう。

アスパラガスには 抗酸化作用があるビタミンEやルチンを含み、
老化防止や動脈硬化、がんなどの予防に効果的で、食物繊維も含ま
れているヘルシーな食材です。

～材料～

2人分 295kcal

・グリーンアスパラガス	1束
・塩	小さじ1
・牛薄切り肉	100g
・生姜(すりおろし)	適宜
・めんつゆ	大さじ1
・砂糖	小さじ1/2
・サラダ油	大さじ1
・コショウ	少々

～レシピ～

1. アスパラガスの根元の固い部分を折る。
塩を入れた熱湯で1～2分固めにゆで、
水に取って冷ます。
水けをきり、斜め半分に切る。
2. めんつゆ、生姜、砂糖を合わせておく。
3. サラダ油を熱して、4cm長さに切った
牛肉をほぐしながら炒め、コショウを
ふる。
4. 肉の色が変わったら、アスパラガス
を加えてさっと炒め合わせる。
5. アスパラガスを一炒めしたら、2の
調味料を合わせさっとからめる。

文：大石 恵子

題字：田中 隆(元当会職員) 表紙撮影：村木弘知(元県職員)